

若神組十三日講だより

春分の候、講員の皆様におかれましては、このコロナ禍にあっても、苦境に負けず力強くお過ごしのことと存じます。十三日講も令和2年の予定事業の一部は止む無く中止となりました。本年も講員研修会など未定の事業があります。事業に変更あるいは決定あり次第お知らせ致しますのでよろしくお願い申し上げます。

前号(令和2年9月13日発行：第6号)以降の活動報告です。

◎ 高岡会館報恩講法要・令和2年度功労者表彰

令和2年11月26日(木) 講長、副講長と5名の受賞者(前号で発表)の方々ら15名が参拝されました。

◎ もち米進納・本山参拝



令和2年12月7日～8日(月・火)
3密を回避するため少人数での参加となり、十三日講からは藤井講長が参加しました。

進納もち米は、1月1日に鏡餅としてお供えされました。

「高岡教区講社連盟「第43回もち米進納参拝」



◎ 12月講(終い講) 法話：光圓寺 平田住職

令和2年12月13日(日) コロナ禍の一年を振り返り、一日でも早い終息を祈りお勤めしました。



寒い中でも
3密を考慮して
戸を全開放

◎ 1月講(お初講) 法話：称名寺 大井住職

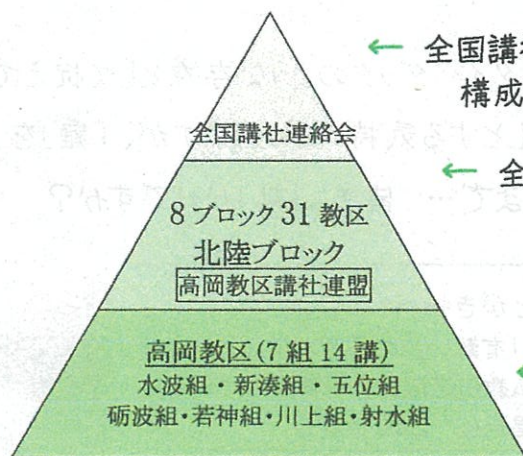
令和3年1月29日(金) 例年通り光福寺にて午後2時から勤行。
総会に於いても全議案が承認され滞りなく終了致しました。

熱心にお聴聞(12/13 称名寺にて)

おさらい【十三日講】の組織

十三日講は「本願寺全国講社連絡会」に所属しています。

講社連の
シンボルマーク
右下には
「和顔愛語」
の文字



← 全国講社連絡会の正副会長ほか各地区から選出された代議員とで構成され、藤井講長は副会長に就いています。

← 全国8ブロック内に31の教区があり、令和元年7月15日現在で236の講社で全国講社連絡会を組織しています。
北陸ブロックは、富山・高岡・石川・福井の4教区です。
(藤井講長は高岡教区の副会長でもあります)

← 若神組には十三日講と二十五日講が属しています。
十三日講は令和3年1月現在418戸の皆様の皆様のご懇志で運営されています。

講社は浄土真宗の教えにもとづいて、それぞれの活動の他、教区や本山の法要・儀式に積極的に参加協力し、お念仏を広く伝えるため活動している本願寺の団体です。私達“講員”は、子や孫に「言ってきたせ、やってみせ」後の世まで広くつたえるため、小さなことから始めましょう。



著者プロフィール

1976 年福岡県生まれ。浄土真宗本願寺派僧侶。
早稲田大学社会科学部・第一文学部東洋哲学専修卒。
2007 年より築地本願寺内の、(一社)仏教総合研究所
事務局、2011～2017 年にデュッセルドルフのドイツ恵光寺、
2017 年 8 月より(公財)仏教伝道協会に勤務。

…気になる内容をちょっとご紹介



某寺の掲示板

『難が無ければ無難な人生
難が有れば苦難の人生
難有ればこそ有り難し』

「難」を題材にしたこのテンポのいい標語は、大阪の寺院が集まる夕陽丘にある浄土宗のお寺のものです。「難」で思い出されるのがダイバダッタ。釈迦族出身で、お釈迦さまの弟子でありながら、師に背くこと幾度、ついには大逆人の烙印を押された人物です。

手塚治虫さんの「ブッダ」にも出てきますし、「月光仮面」で有名な川内康範さんの作品「愛の戦士レインボーマン」にも主人公に超能力を授ける役として登場しますので、その名前を耳にしたことがある人は多いでしょう。そんなダイバダッタを、お釈迦さまは自分が悟りを得るために「難」を作り出してくれる存在として捉えます。「難有ればこそ有り難し」、まさに「有難い」存在だったのです。

先頃お亡くなりになった樹木希林さんは、「難の多い人生は、ありがたい」と、こんなお話をされています。私は「なんで夫と別れないの」とよく聞かれますが、私にとってはありがたい存在です。ありがたいというのは漢字で書くと「有難い」、難が有る、と書きます。人がなぜ生まれたかと言えば、いろんな難を受けながら成熟していくためなんじゃないでしょうか。

記事を読む限り、樹木希林さんは内田裕也さんをどうやらダイバダッタのような存在として捉えていたようです。平穏な人生という意味で「無難な人生」を良しとする気持ちがありますが、「難」を乗り越えていくことにも、人生の喜びが潜んでいます。ここまで… 皆さんはいかがですか？

— お参りのご案内 —

◎ 5月講(降誕会)

日時：5月21日(金)午後2時～
場所：西照寺 砺波市中野

◎ 6月講

日時：6月13日(日)午後2時～
場所：光乗寺 高岡市戸出大清水

◎ 特別永代経法要団体バス参拝

日時：7月24日(土) 井波別院
(詳細が決まり次第同行からご案内致します)

*****あとかき*****

ここで「有難い」の語源を学ぶことに。
ちなみ「仏教伝道協会」が募集している
“お寺の掲示板” 2020 大賞は

コロナよりも怖いのは人間だった

(作：ドラッグストアの店員)

とのこと。一日でも早くこの状況が終息へ
向かいますように。



M

勝興寺 大修理完工祝う

伏木

webun に写真7枚

高岡市伏木古国府の国重要文化財・勝興寺で23年にわたって進められた「平成の大修理」が完工し、11日に同寺で完成式が行われた。本堂や本坊を中心とする12棟の大規模な改修を経て江戸時代の壮麗な伽藍がよみがえり、関係者や地元住民ら約400人が節目を祝った。【関連記事32面、い」とあいさつした。

文化庁や県、市をはじめ、地元の県議や市議、市内の企業、地元自治会関係者らが出席。水見哲正同寺文化財保存・活用事業団理事長が「まちづくりの核となるよう活用してもらい、人々の心のよりどころとしての寺院本来の役割も果たしたい」とあいさつした。

前田利祐加賀前田家18代当主と橋慶一郎衆院議員、新田八朗知事、高橋正樹市長が「江戸期の姿を取り戻し、国宝への期待も高まっている」などと話し、富田亮平前文化庁長官と杉浦久弘同庁次長が祝辞を述べた。土山照慎住職と関係者らがテープカットした。大修理は国の補助を受け、1998年に本堂を復元する第1期工事がスタートした。2005年からの第2期工事は、住居機能を担う本坊を中心に11棟を対象とし、20年度末で全ての修復事業が終了した。総事業費は約70億円。



23年にわたる「平成の大修理」の完工を祝った式典＝勝興寺

雲龍山 勝興寺

重要文化財

順徳天皇勅願所 蓮如上人開基
大伴家持の国庁跡

コラム



第3回研修旅行

2019.7.18

勝興寺の歴史

越中国砺波郡井波(現、南砺市井波)瑞泉寺と加賀国河北郡二俣(現、石川県金沢市)本泉寺の住持を兼帯した勝如尼(本願寺8世蓮如の義理の叔母)は、蓮如の2男蓮乗を娘婿にするとともに、1471(文明3)年、越中国砺波郡蟹谷庄上山(現、南砺市上山)に坊舎を営み、蓮如の4男蓮誓を住持とした。蓮誓は1485年頃、坊舎を高木場(現、南砺市高窪)に移して、幼少の2男実玄に継がせ、自身は加賀国江沼郡山田(現、加賀市)光教寺に去ったが、高木場坊は、勝如尼の影響下から自立した。高木場坊は、佐渡国(現、新潟県)の順徳天皇勅願所であった殊勝誓願興行寺の名跡を継いで勝興寺と称し、本願寺内で高い寺格を得た。さらに1519(永正16)年、末友村(現、小矢部市)に移り、小矢部川中下流域から、射水・婦負両郡の寺院・道場の坊主や有力真宗門徒衆を与力「越中衆」に編成し、越中真宗教団の頭首となった。

越中真宗教団の頭首となった勝興寺の変遷

また、実玄の妻妙勝が、本願寺10世証如の母慶寿院融誓(鎖水)の長姉であったことから、勝興寺は本願寺門主直近の一族とされ、本願寺が1559(永禄2)年に門跡寺院となると、1560年に、院家の地位を得た。配下の越中一向一揆勢は、甲斐(現、山梨県)の武田信玄と結んで、越後(現、新潟県)の上杉謙信に対抗し、戦国動乱に加わった。



1581(天正9)年、末友坊勝興寺は、木舟城(現、高岡市)主石黒左近成綱の夜襲で全焼した。成綱が織田信長方に誘殺され、信長家臣の佐々成政が越中を領すると、家臣となった守山城(現、高岡市)の神保氏張は、一向一揆勢の取込み化を謀り、1584年に古国府(現、高岡市)の地を勝興寺に寄進し、住持に越中還住をすすめた。豊臣秀吉の成政討伐軍に同道して、帰国した勝興寺顕幸は、秀吉の承認を得て古国府に入り、神保氏の後に守山城主として越中3郡を領した前田利長は、1585年に勝興寺に禁制を与え、保護を承認した。

浄土真宗と北陸越中の精神文化

—高岡教区 講社連盟・総会 公文名 眞師の講演（要旨）です—

- 勝興寺保存修理竣工式に、本願寺関係者の挨拶がなかったことは、越中における浄土真宗の影響を見誤っている象徴的な出来事であった。
 - 金沢は誰が開いた町か（初代・前田利家ではなく本願寺）
 - ・15世紀末、北陸では八代法主・蓮如上人の布教活動により急速に門徒が増えた。
 - ・越中、加賀の門徒（民衆）は、道場を開き寺院を建立した。真宗門徒は、武家の支配を受け入れることなく、在地土豪・百姓支配の時代を築き、これが約百年間続いた。（百姓の持ちたる国＝共和国）
 - ・金沢『百万石まつり』は、前田家の金沢「入城」を謳っているが、前田家「入城」以前の金沢には、本願寺金沢支坊があり、それが基いとなった町である。
 - ・信長は真宗門徒の殲滅を目指し、白山ふもとの鳥越城で、加賀・越中・能登の真宗門徒を屈服させた。
- 鳥越は真宗門徒が、信長の侵略に抵抗し最後まで戦ったところですが、その後、大虐殺があった。
- ※抵抗の記念『鳥越一向一揆祭り』は、昨年8月9日新型コロナウイルスのため中止となりました。
- 高岡銅器は、誰のお蔭で発展したか（加賀二代藩主・前田利長？）
 - ・仏具を必要とした寺院と門徒。砺波の西部金屋の職人が、高岡の金屋町を開町したのが起源である。
 - 越中の製薬・売薬の基盤は（富山第二代藩主前田正甫？）
 - ・真宗の教えに基き、お祓い、お守り等の習慣がなく、因果律の合理性に従って薬を開発したもの。製薬・売薬については、富山以外に日野町（滋賀県）大和郡山市（奈良県）があるが、浄土真宗の盛んな土地柄で共通する。
 - 北陸越中人の、労働倫理を支えたものは
 - ・真宗の教えで、朝夜明け前から暗くなるまで働く勤勉さ、仏に対する報恩精神において、これでよいと云うことがなく、勤勉、正直、儉約、忍耐を基にして、仏さまの視線・励ましをいただきながら頑張った。
 - 越中人の、東北相馬や北海道移民は何に由っているか
 - ・農家の次男・三男の相馬や北海道移民は、受入れ元から望まれて出向き、役目を果たし根付いた。越中人の勤勉さ、正直さが評価されていた。
 - ・移住に際しては、背中には仏様・仏具などを背負って皆持参しており、この信心の深さに移民先の人々は驚いたものだ。

●富山の幸福度の高さは

- ・政治のお蔭というより、真宗の教えの中で育まれた報恩・忍耐の精神が民衆に広く普及し、皆が自分の身の丈に合った幸せを求め、達成感などにより幸福を味わった。仏への感謝の気持ちが日常的に常にあった。
- ・東北地方には当時、口減らしのための子供の間引きがあった。富山にはなかった。これも真宗の教えが根強くあったからだ。

◎まとめ

浄土真宗は、越中富山の精神的財産→後世に伝えていく価値ある使命がある。

- ・加賀藩前田家の繁栄は、あらゆる分野で浄土真宗の基礎ベースに乗った文化である。しかしながら、此处50年位で真宗の継承が軽んじられ、越中富山の良いところが影を潜めたことが大問題である。精神的安心（あんじん）の拠所として、み教えを広め後継者門信徒の育成を真剣に考えようではないか。
 - ・浄土真宗に培われた精神文化は、北陸越中に限定されるものではない。それは行き過ぎた資本主義や環境破壊などで混迷し、コロナ感染症で悩んでいる現代社会において、民族や思想の違いを越えて、受容され直さなければならないものとする。
- そのためには、今一度門徒が主役の教団・教学を再構築することが不可欠である。

文責 藤井成正